

学報

vol. 63
SEPTEMBER
2025
ANNUAL PUBLICATION

聖書のことば 学長・看護学部長・看護学研究科長挨拶 授業紹介 海外研修
国家試験・採用試験の結果と就職関連情報 国家試験・教員採用試験対策卒業生インタビュー 新任教員紹介
地域連携推進センター通信 介護福祉専門学校通信 研究者への道 活躍する卒業生
リカレント教育のご案内 聖灯祭・ホームカミングデーのお知らせ



特集・対談
生きづらさに寄り添う
聖隷人の取り組み

INFORMATION 聖灯祭・ホームカミングデーのお知らせ

学校祭のご案内

第24回 聖灯祭 どなたでもご来場
いただけます
日時:2025年11月1日(土) 10:00~16:00
会場:聖隷クリストファー大学

今年のテーマ:「^{つむ}紡ぐ」

学年、学部の壁を越えて聖灯祭に関わり、参加する全員が楽しめる。出会った人同士を紡いでいく、想いを紡いでいく、未来へ紡いでいくという意味が込められています。各学部・専門学校の特徴を生かした体験ブースや様々な出店をお楽しみください。



同時開催

ホームカミングデー
日時:2025年11月1日(土) 10:00~
会場:聖隷クリストファー大学

仕事や研究・研修の拠り所として、また保健医療福祉・教育の最新情報や人材情報の交換拠点として母校を活用してもらうよう本学の現在を伝える機会、同窓生、先輩・後輩と旧交を温め教職員と交流する機会です。

詳細はこちら



〈予定プログラム〉ウェルカムセレモニー、領域ごとの勉強会・交流会、ミニパーティ、幹事年度ごとのプレイバック&クイズなど



PICK UP

公開講座 2025

こころとからだの健康のために幸福に生きるためのヒントを学ぼう

10/11(土)

開場 12:30
公演 13:00~14:15

テーマ 3
病気や障害を抱える
兄弟姉妹がいる「きょうだい」と
共に歩む地域づくり
社会福祉学部 社会福祉学科
教授 福田 俊子

開場 14:15
公演 14:45~16:00

テーマ 4
不器用児に対する
支援について
リハビリテーション学部 作業療法学科
教授 伊藤 信寿

10/25(土)

開場 12:30
公演 13:00~14:15

テーマ 5
発達障害と「生きる」
~人生100年時代に考えておきたい
子どもから大人までのこと~
国際教育学部 こども教育学科
准教授 内山 敏

開場 14:15
公演 14:45~16:00

テーマ 6
認知症とともに
穏やかに生きるために
看護学部看護学科
准教授 木村 暢男

興味のある方は
どなたでも参加できます

1テーマ
から
受講OK!
受講料
無料

詳細はこちら



後援:社会福祉法人 聖隷福祉事業団、
浜松いわた信用金庫、浜松市

※テーマ1, 2は終了しました。

学報 第63号
2025年9月発行

発行者/聖隷クリストファー大学 <https://www.seirei.ac.jp>
聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 <https://www.seirei.ac.jp/carework>
〒433-8558 静岡県浜松市中央区三方原町 3453 TEL:053-439-1400 FAX:053-439-1406



聖書のことば

ヨハネの手紙一 三章十六節

イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。そのことによつて、わたしたちは愛を知りました。だから、わたしたちも兄弟のために命を捨てるべきです。

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」(ヨハネによる福音書十五章十三節) イエス・キリストは弟子たちにそう述べて、十字架上で命を捨て、復活に至りました。キリスト教の愛の教えは「贖罪」と言われ、このイエス・キリストが「わたしたちのために、命を捨ててくださいました。」という点に核心部が存在します。

人間はいろいろな場面に愛情を感じるでしょうか。それは、誰かの為に「損をしても構わない。」という行動にこそ、如実に表れます。家族や友情においても、記念日にプレゼントを贈るのはその一つの代表的な表現です。そして命は、人生で最も高価なものです。災害や事故で「命がけの救出劇」が起こる時、そこには私たちの胸を打たずにはいられない何かが存在します。

イエス・キリストは、人間への神の愛の故に、その「命そのものを捨てて」くださいました。ご自身を人間の罪の「身代金」とさえ表現しています。イエス・キリストのそのお姿を信じて愛の業に励むとき、我々も「兄弟や友のために命を捨てる。」という態度が登場します。他者の為に敢えて損をする、「捨てる生き方」があるのです。

それは、もちろん損な生き方です。しかし、イエス・キリストに示された神の愛に裏付けられる時、そこには本当の自由があります。「自分の利益や損得勘定」という殻に閉じこもるのではない、真の意味で「愛し、愛される生き方」の扉が開きます。どのような時代にあつても、主イエスの十字架はその「命の全てを用いて、愛し抜く生き方」への誘いなのです。

聖隷学園宗教部主任 仲 義之

学長挨拶

二つの願い



学長 大城 昌平

ご家族の皆様には、日頃より本学の教育・研究並びに大学運営に對しましてご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。おかげさまで、父母等保証人の皆様を対象とした満足度調査におきましても、高いご評価を頂いております。今後も皆様からのご意見を真摯に受け止め、より良い大学づくりに一層努めてまいります。

さて、この学報を通じて、本学の建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に込められた、皆様のご子息・ご息女への「二つの願い」についてお伝えしたく存じます。

一つの願いは、「他者を思いやり、命の尊厳を大切にできる人に育ってほしい」ということです。本学の原点は、結核などの重い病に苦しみ、社会から孤立していた方々に寄り添い、献身的にケアを行った先人たちの姿にありま

す。それは、「すべての人の命の尊厳を守り、隣人に尽くす」という、キリスト教に基づく深い愛に支えられたものでした。学生の皆さんにもこの精神を受け継ぎ、病氣や障がい、生活の困難を抱える方々、そしてこれから社会で育っていく子どもたちの命を守り支える存在として成長してほしいと願っております。

もう一つは、「自分自身もまた、愛される存在であることを信じて生きてほしい」という願いです。学生生活やその先の人生において、思うようにいかないこと、孤独を感じることで、心が折れそうになることもあるでしょう。特に対人援助の仕事は、自己犠牲を伴い心が疲れてしまうこともあります。聖書は「たとえ暗闇の中にあつても光がある」「神があなただを支えている」と語ります。信じる心は、困難を乗り越える力となるはずで、私たちは、学生一人ひとりが「自分もまた愛される存在である」ことを信じ、自らの命の尊厳を大切にできるよう、日々の教育と対話を大切にまいります。

これからも、この二つの願いを胸に、学生の皆さんが「自分のように隣人を愛する人」として成長できるよう、教育・支援に取り組んでまいります。引き続き、ご家族の皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

看護学部長挨拶

学生の皆さん一人一人が めざしたい看護をサポート



看護学部長 榎原 理恵

本年四月に学部長に就任いたしました。超少子高齢化を迎え、社会から求められる看護職者の役割や活躍する場はますます拡大しています。看護学部では、建学の精神である【生命の尊厳と隣人愛】を基盤とし、対象の方を生活者としてとらえ、その尊厳を守り、療養生活を支援できる専門職業人の育成をめざしています。教員は自分の研究分野について広い知見を持ち、学生の皆さん一人一人がめざしたい看護を探索し、その道を歩む力を蓄えるためのサポートをしていきたいと考えています。

また、看護研修センターでは、卒業生をはじめ地域で活躍されている看護職の方を対象に継続的に研修会も実施しています。看護のこれからを担う人材の育成に尽力してまいります。

看護学研究科長挨拶

聖隷で花開く 看護実践の科学



看護学研究科長 河口 てる子

看護は実践の科学だとよく言われます。しかし、看護が科学足るには、看護職自らが看護実践を詳細に記述し、その方法を分析、解き明かし、効果を検証しつつ、その意味と意義を社会に向かつて説明しなくてはなりません。

多くの病院では、看護師が日々の看護実践を当たり前の行為だとして、価値あるものと思っていない。それは思い込みです。解き明かされていない多くの看護行為は、分析され意味づけされた後、行為に名前が付けられ、良質な看護行為として広く公開されるのを待っています。看護実践を概念化、理論化、検証するのです。それは実践の看護師にしかできないことです。どうぞ、聖隷の看護と看護界の発展のために、私たち教員と一緒に大学院で看護実践を検討してみませんか。



大場 義貴 聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 教授

主な研究テーマ：
メンタルヘルス上の支援を必要とする人への心理・社会的支援

不登校児支援連絡協議会会長、就学支援委員会委員長を歴任。その他、ひきこもり地域支援センター企画検討委員、発達障害児者支援地域協議会委員、若者サポートネットアドバイザーなどを担う。



鈴木 文子 聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 准教授

主な研究テーマ：
メンタルヘルス不調者や精神障害者の職場復帰支援、就労支援

健康心理学を専門とし、主に企業等で働く労働者のメンタルヘルス支援、健康支援を行う。企業や福祉施設等での研修やセミナーも行い、労働者のこころの健康を支える取り組みを行っている。

依存症者の自殺対策として、司法書士や弁護士と連携し、精神保健福祉士を派遣するという取り組みなども行っています。

現場での疑問や課題が研究の出発点に

—そのような研究や活動を始めたきっかけは何ですか。

大場 私はもともと精神科クリニックでカウンセラーをしながら、同じクリニックの精神科デイケアで指導員の仕事を兼務していました。対応していたのは主に思春期や青年期の方でした

が、回復してくると、「働きたい」「一人暮らしをしたい」という将来の夢を語るようになってきたのです。そこで、精神障がい者の社会復帰施設の立ち上げや、差別や偏見をなくし、理解を推進するためのNPO設立に携わり、自分自身の専門が「心理」から、次第に「福祉」や「地域」へとシフトしていくようになりました。その後も浜松市内でネットワークを作ったり、行政との連携を始めたり、地域全体を視野に入れた展開をする中で、疑問を抱くようになったのが、自分が対応する個別のケースや地域での回復が、全体の中でどのくらいのレベルの人なのか、ということでした。つまり、自分が取り組んできた個別の支援や地域での支援が、真に効果のある支援かどうか、社会疫学・統計学的に解明する必要性を感じ、研究を始めることにしたのです。鈴木 先生はどういうきっかけで、就労支援の研究をすることに？

鈴木 私も大場先生と一緒に、精神科デイケアが始まりました。

大場 その当時、鈴木先生は大学院生だったんですか。

鈴木 そうです。院生として教授と一緒に市民講座の講師や企業での研修講師を務める機会があり、そこでたまにお会いした、地域で活躍するソ

心の健康なくして まさに健康なし

—生きづらさを抱える人々の現状や取り巻く環境について教えてください。

大場 依然として深刻な状況にあります。精神科を受診する人は増え続けていて、三十年ぐらい前は約百五十万人だったものが、今は六百万人を超えています。不登校の児童生徒数は、コロナ前の約二倍となる三十四万人に急増しています。背景には、子どもの要因だけでなく、家庭環境や学校環境など、複合的な要因が考えられます。また、ひきこもりの人も推計で百四十六万人と、若者だけではなく、8050問題（八十代の親が五十代のひきこもり



聖隷クリストファー大学 社会福祉学部で学ぶ魅力 大場 義貴 × 鈴木 文子 社会福祉学部 教授 社会福祉学部 准教授

生きづらさを抱える人々に、どのように寄り添い、支援を提供しているのか。聖隷クリストファー大学社会福祉学部で不登校やひきこもり、メンタルヘルス不調者などに対し、研究と実践の両面からアプローチするお二人の先生にお話を伺いました。

それぞれが取り組む 主な研究・活動内容

—はじめに、お二人は現在どのような研究や活動を行っていますか。

大場 現在、私は社会疫学や統計学を用いて、不登校や引きこもりの人の研究をしています。社会疫学とは、社会的な影響を明らかにする学問です。社会の中でどのような原因や結果に基づいて、その現象が起こり、次のさらなる現象を起こすのか、ということに関心があり、その手法を取り入れていきます。例えば、不登校と引きこもりは関連があるのか、不登校の人は将来どうなっていくのかを調べるために、現在引きこもりの人や無業の人に、かつて不登校だった経験の有無について調査を行います。すなわち、結果から原因をさかのぼる（統計的に分析する）ことで、その原因がどの程度結果に影響を与えているのか、ということを知ることができるわけです。そんな研究を主に行っています。

鈴木 私のメインとなる研究テーマは二つあります。一つはメンタル不調とあって、主にうつ病の方などが含まれますが、そういった方が一旦休職して、職場復帰するときに必要な要因についての研究を行っています。職場復帰支援の研究は、だいぶ進んでいて、仕組みも整いつつありますが、企業や地域によって支援体制の差があります。それと、もう一つの研究テーマである、精神障がいの方の就職支援に関する研究にも力を入れています。例えば、発達障がいがある方にはどのような支援が有効なのか、それぞれの事業所で試行錯誤されている状況ですので、マニュアルとまではいかないまでも、指針となるようなものが作成できたらと考えています。大場先生はそのほかにいろいろな活動をしていらっしゃるようですよね。

大場 そうですね。思春期メンタルヘルスに関する支援プロジェクトの立ち上げや、多重債務に陥ったギャンブル



の子どもの生活を支え、生活に困窮したり、孤立したりする問題）など、高齢化と長期化が社会的な課題となっています。このような状況を考えると、WHO（世界保健機関）が提唱する「心の健康なくして健康はない」という考え方が、まさに今の日本に当てはまると感じています。

鈴木 生きづらさという観点で見ると、大場先生がおっしゃった不登校の児童生徒の数や精神科を受診する人の数が増えているように、休職者の数も確実に増加しています。また、近年は働き方もさまざまに変化していて、一度病気休職をとって企業に戻るといって選択肢だけでなく、多様な働き方を模索する人が増えています。とはいえ、まだまだ同じ企業に戻るのがスタンダードではあるので、その際、職場復帰に向けて行うリハビリテーションをリワークや復職支援と呼んで、サポートしています。また、障がい者の就労支援を見ると、精神障がいの方の働く入口の難しさ（就職のしにくさ）がありますし、就職してから継続しにくいという難しさがあります。採用する企業の側も、精神障がいの方にどう対応したらいいのかわからないというところで、身体障がいの方を採用する傾向にあるなど、障がいの中でも、特に精

神障がいの方の就職や就職継続の難しさがあると実感しています。そういうことも含めて、私自身としては主に精神障がいの方にスポットを当てて研究しています。

本人はもちろん 支援者にも支援が必要

「これまでの活動や研究の中で見えてきたことは何でしょうか。」

鈴木 リワークの職場復帰支援においては、これまでにいろいろな先生方が研究されていて、どんな要因が整えば復職できるかというところまで明らかになっているんです。私の研究では例えば、本人が前向きに考えられるとか、仕事で根を詰めすぎずに気分転換できるなど、自分で体調や仕事をコントロールできるスキルを持つことが大事だということが分かりました。ですが、それだけではないんですね。やはり周りがどのようにサポートするかということもすごく重要で、例えば、上司はどのタイミングでどんなサポートをした方がいいのか、同僚はどこでどんな声掛けをした方がいいのか、職場で実際に復職者を受け入れるとき、周りで見えることや伝えられる要因がいくつか見えてきたように思います。それは

関を含め、その関係諸機関との連携の必要性を強く感じています。これは問題が深刻化する前に社会全体で若者を支える予防的なアプローチ、その重要性を示していると思います。若者の生きづらさという課題が、個人の課題に還元されるだけでなく、個人の脆弱性（もろくて弱い性質）とそれを増幅させている社会構造的な要因の相互作用によって生じている可能性を示しています。今後の研究や支援においては、個人への支援と同時に、より包括的な社会システムの構築として、連携の仕組みですとか、協働の仕組みを作りたいと考えています。

地域に貢献する活動を通じた実践的な学び

「寄り添う人を育てる聖隷クリスティーア大学として、どのような取り組みを行っていますか。」

大場 本学ではキリスト教の「隣人愛」という建学の精神に基づいて、学生たちが地域社会に貢献しながら実践的に学び、卒業後も社会で活躍できるように、多岐にわたる取り組みを展開しています。いくつか代表的なお話を申し上げますと、地域実践アクティブラーニングという全学科目があります。中

休職者が職場復帰したときに限らず、障がい者が就労するときのサポートにおいても重要なポイントになっていきます。

大場 見えてきたことは、まず引きこもりの状態にある若者のメンタルヘルスがそうでない人たち、いわゆる対照群と比較して有意に低い、つまりメンタルヘルスの状態が悪いということが明らかにになりました。これは個人の心理的要因に加えて、社会からの孤立や排除といった社会構造的な要因が、メンタルヘルスに深刻な影響を与えている可能性を示していると考えられます。さらに一年、二年と年齢を追って調査した結果、不登校と無業との間に強い関連性があることが明らかになりました。このことは、不登校が教育機会の不平等を生み出す可能性があるこ



でも、私が行っているプロジェクトは、不登校支援団体「まなびの教室」と協働しながら、学習支援動画の制作・提供を行っています。この活動は、不登校の現状とその支援現場の実情をまず学生が理解しないと動画が作れないので、どういう子どもたちがいるのかという実情を理解して、ICTを活用した新たな支援の形を提案する、その契機となっています。と同時に、浜松市の不登校の子どもたちへDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する一助にもなっています。学生たちは、動画制作を通して主体的な学びを深めるとともに、自分たちが社会課題と向き合い、アクションを起こすことによつて、地域課題の解決に貢献するという貴重な経験を積んでいます。また、学生ボランティアによる地域支援活動も盛んに行われています。私が顧問を務めるサークル「2びいす」では、精神障がいのある方々が手作りするお菓子を月に一度、大学で販売するボランティアを学生たちが行っています。

コロナ禍の困難な状況下でも、とにかく火を消さないという思いで販売を継続した功績が認められ、浜松市の「青少年の表彰」で善行賞を受賞しました。「まなびの教室」は、学校に行けない



福祉士も八十%を超えています。その理由は実習だと思います。私は思っているんです。実習先で「私もあの先輩のようになれるためには資格を取って」と頑張るわけです。

と、また、その後の若い年齢での社会参加を阻害するリスクを高めること、さらには長期的なキャリア形成に影響を及ぼす可能性を示していると考えられています。また、自殺対策に関する福祉専門職、民生児童委員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーへの意識調査を行った結果、支援者自身のメンタルヘルス支援の必要性とともに、各機関間の連携における課題というものが浮き彫りになりました。自殺対策においては、個々の支援者の努力に依存するだけではなく、より包括的で連携の取れた社会支援システムの構築が不可欠であるということが示されたと思っています。

鈴木 見えてきたことのもう一つは、これからの研究の視点になります。サポートする人をサポートする専門職が必要だということです。それができるのは、例えば、公認心理師や精神保健福祉士のような医療福祉に関わる人材です。サポートの仕方がわからないという職場の人たちを支えていけるような、集団や環境に対するアプローチが必要になってくると思っています。

大場 私はNPOによる引きこもり支援や若者支援の代表を務めています。が、そうした現場からの知見としては、子どもたちが通う場所になっていますが、鈴木先生も行かれていますよね。

鈴木 はい。学生が心理の実習でお世話になっていたので、実習巡回として伺いました。私はまだ本学に来て二年目なので、卒業生を見ると、いろいろな実習先に向うたびに、「聖隷クリスティーア大学の卒業生です」という方がいらして、皆さん現場で活躍されているんです。その姿を実習生が見て、「自分も将来、こんな風になるのかな」「あんな風に活躍できるんだな」というのがわかりやすいですね。卒業後のイメージを持ちやすいというか。

大場 ロールモデルを見つけやすいんです。身近にロールモデルになる卒業生がたくさんいるので、将来像が見つけやすい。だから本学の社会福祉学科は、精神保健福祉士、社会福祉士の合格率が非常に高く、精神保健福祉士は九十〜百%で、社会福祉士も八十%を超えています。その理由は実習だと思います。私は思っているんです。実習先で「私もあの先輩のようになれるためには資格を取って」と頑張るわけです。



持つ人が、この地域に生まれたことを不幸と感じることのない社会を築きたいと思っています。薬物治療など精神疾患の治療は非常に進歩している現代でも、地域社会では依然として差別や偏見、無理解など、多くの課題が横たわっています。それは、薬や理念ではどうにもならないものだからこそ、社会福祉学科において、精神保健福祉士と公認心理師を養成し、心理の専門性を深く理解したソーシャルワーカーを育成していくことに力を注ぎたいと考えています。臨床現場の知と研究の知を融合させた学びを通して、学生たちが地域社会の構造的な課題に気づき、人々の生きづらさの根源に迫る力を養えるような教育を進めていきます。そして、卒業生たちが専門的な知識と温かい心をもって、精神的な困難を抱える人々やその家族を支え、誰もが安心

して暮らせる地域社会の実現に貢献してくれることを願っています。この地で生まれ、生きる人々が、それぞれの幸せを実感できる未来を目指し、教育・研究・実践を通して貢献していきたいと考えています。

鈴木 先ほど座敷牢という話がありましたが、まだそういう名残のある場所や実際にそうなっているケースが全国的に存在するのだろうと推測されます。中心部の活動だけでは、支援が届かないという現実が実際にあることに衝撃を受けています。そのような方々への支援をどう届けるかが今後の課題だと感じます。また、社会で活躍できる場は就労の面でも提供できると考えています。今後の取り組みとしては、自分が何かの役に立っていると感じることや、社会の一員であるという感覚を持てるような、働く仕組みを作っていくらと思っています。加えて、公認心理師などの専門職は、生きづらさを抱える人だけでなく、幅広い人を対象としています。障がいや疾患の有無に関わらず、誰もが働きやすく生きやすい環境を作っていくための支援ができる心理師を育成していきたいと思っています。

場、多様な領域で心理師として活躍できるのではないかと思っています。

大場 精神保健福祉士として働くときにも、精神保健福祉の知識だけでは足りないんですね。例えば、ギャンブル依存症の人とか、引きこもりの人、自殺未遂を繰り返す人など、福祉心理コースでは、心理的な内面や生活環境の要因を推測しながら、ソーシャルワークを行う人材を育成します。公認心理師が示す心理テストのデータが読める力があると、ソーシャルワークがよりパワフルになるし、心理のことを学んでいけば、公認心理師との連携がより強化されると思います。卒業後は、大学院で公認心理師の資格を取ることでもできるし、心理に強いソーシャルワーカーとして働くこともできます。そして、公認心理師の資格を取得したときには、ソーシャルワークのわかる公認心理師になるわけです。一方で、専門職を目指すだけでなく、心理学を学びたいという人のためのプログラムを二〇二六年度から展開していく予定です。心理学の知識やメンタルヘルスの知見を、複雑な社会を生き抜くための力として活用できるようにすることを目指しています。

AIには代替できない、人にしかできない仕事

—最後に、この冊子を「覧になる方へのメッセージをお願いします。

大場 社会福祉を目指す人材が全国的に減少しています。支援する人は増えているのに、支える人は不足している状況です。しかし、この仕事はAIには代えられない、人にしかできない仕事です。そして、ますます求められている仕事であり、自分自身が成長できる仕事でもあります。私自身に関して言えば、主に思春期の方を担当しているので、仕事のたびに自分のちよっと振り返りたくない思春期を、何度もトレースするように振り返るということが起こるわけです。でも、それが自分にとっては、蓋をして終わりにしなくなかったことなんだなと、思うに至りました。そんな自分の揺らぎが誰かを支え、その誰かがまた他の誰かを支えていくという社会を垣間見られるのも、この仕事の魅力ではないかと思えます。社会福祉や心理学を目指す人が増えてくれることを切に願っています。

鈴木 大場先生がおっしゃったように、自分を理解し、成長する機会は豊富にあります。いろいろな事例を授業で学んだり、実習で見たりすると、自

福祉にも心理にも精通したハイブリッドの人材を

—社会福祉学部で学ぶ魅力を、改めてお二人の先生にお伺いしたいのですが。

鈴木 本学の社会福祉学部には、「公認心理師」という国家資格に対応する課程ができました。精神保健福祉をベースにしながら、公認心理師の教育を受けられる魅力あるコースです。卒業後、本格的に心理の道を目指す場合も、精神科の心理師だけでなく、福祉の現場や教育の現場などさまざまな現場に対応できる心理師を育てやすい環境にあると思います。カウンセリングといった限定的な仕事だけではなく、多様な現



誰もが生きやすい地域社会の実現を

—お二人が目指す未来について、具体的に聞かせてください。

大場 私の姿勢は一貫して「現場と共にある」という信念に基づいています。また、代表を務めるNPOの指針として「コノ地に生キル幸セヲ」を掲げています。この指針は百年ほど前に、ある精神科医が日本の精神疾患患者を調査した際、「病気になるた不幸」と「この国に生まれた不幸」という言葉を残したことに由来します。この国に生まれた不幸は、当時、座敷牢があったことを示しています。つまり、精神疾患の患者さんを家族が看ることを法律で定めた国なんです。それほど家族への依存度が高く、人権が尊重されない状況でした。これを私たちはこの国の大きな課題と考えていて、この地、浜松や遠州地方に生きる幸せをお互に見つけられるような地域社会にしたいという思いを込めて、「コノ地ニ生キル幸セヲ」の言葉を掲げ、NPOの活動を推進しています。そして、精神疾患を持つ人や生きづらさを



分自身に重ね合わせ、悩みや葛藤を経験する学生も多いですが、それも自己成長の機会と捉え、学びにうまく活用して、支援する側の人になってもらえるといいなと思います。福祉や心理は大変な仕事というイメージがあるかもしれませんが、成長や楽しみもあることをぜひ知っていただきたいです。

—本日は大変貴重なお話、ありがとうございました。

大場・鈴木 ありがとうございます。





「国際バカロレア(IB)教育※」 について教えてください。

IBは三歳から高校卒業までの学習者を対象とする教育プログラムです。発達段階に応じた四つのプログラムが世界中の教育現場で実施されています。最大の特徴は「学習者中心の学び」です。学習者自身が問いを立て、調べ、考え、学びを深めていく探究型の学びを通して自分で考える力や学ぶ姿勢を育てます。また、協同学習や地域社会とつながるプロジェクトなど参加型の学びが多く、学びに対する関わり方が自然と深まるのもIBの教育です。さらに、異文化理解、国際的な視野、平和の大切さも教育の柱にしています。世界中で起きている課題を学びに取り入れ、「地球市民」として考える力を育てていく点も他の教育プログラムとは大きく異なります。

※IBについて詳しくは「文部科学省IB教育推進コンソーシアム」のウェブサイトをご覧ください。



「国際バカロレア教育入門」 の授業はどんな授業ですか。

教育者として大切な考え方や姿勢（マインドセット）を身につける第一歩として設計しています。IBの基本的な理念を教育理論や実践とつなげながら学ぶことで、学生自身がIBを学校教育全体の流れ

もスタートしました。浜松市周辺を中心に静岡県、愛知県東三河地域の先生方の研修の場を提供しています。

この授業を通じて、 学生の変化を感じましたか。

最初は「教えること＝教育」と考えていた学生が、次第に「問いを立てる力」「学びを支える環境づくり」「学び続ける姿勢」といった視点に関心を持つようになりました。授業では、自分のこれまでの学びとIBの考え方を比べながら、「自分ならどう教えたいか」を語る場面も増え、自身の教育観を共有する姿から大きな成長を感じています。卒業生の中には、IB校である聖隷クリストファー小学校で教員として活躍している方もいます。今後の更なる成長にも大いに期待しています。

※ PYP= 3～12歳の園児・児童を対象とする初等教育プログラム(Primary Years Programme)です。
※ IBEC= IB Educator Certificate (IB 教員資格)

Q&A

Q1 IB教育の「教育者」には何が必要ですか。

A1 「正解を教える」のではなく「共に問い、共に学ぶ」教育者を理想とし、教師も学び続ける生涯学習者であることが求められます。この授業では学生が自身の学習に関心を持ち、主体的に学ぶように工夫しています。

Q2 「国際」と聞くと英語のイメージが強いですが、英語ができないとだめですか？

A2 本学でのIB関連の授業はすべて日本語で行います。英語を母語とするゲストスピーカーの授業も日本語に通訳しますので、安心して授業に参加していただけます。

Q3 卒業後は幼児教育に携わりたいですが、IB教員資格は活かされますか？

A3 もちろんです。本学の授業は保育園、幼稚園、小学校で提供されています。また、学生が卒業時に取得予定の教員免許に応じて、幼児教育や小学校の現場で演習や実習を行います。

や背景の中で見て考え、自身の教育観とどうつながるかを探ることが出来ます。授業は「気づき」と「つながり」の二つの育成に焦点を当てて組み立てています。学生が自分の学び方や価値観、教育者としてのあり方に気づき、IBと他の教育理論・実践の関係性を理解し、自分なりの教育観を形成することを期待しています。ディスカッションやグループワークを通してIBが重視する探究的な学びを体験できるのもこの授業の大きな特長です。この授業で得た学びは三年次以降に履修可能な「国際バカロレア教員養成プログラム(PYP※)」の土台となります。このプログラムは多様な教育現場で活躍できる柔軟な教育者を養成することを期待して、二〇二二年度に国内八番目、東北北陸地方では初の大学として国際バカロレア機構より認定を受けました。学生は修了要件に必要な五科目の単位を取得すると国際バカロレア機構からIB教員資格(IBE C※)を授与され、IB校で教師として活躍するためのパスポートになります。また、公立・私立学校でも、柔軟で批判的思考力を備えた教育者であることの証明にもなります。また、二〇二三年度には現職教員を対象とする「国際バカロレア教員養成プログラム(IBE C)履修証明プログラム」

異文化を知り、専門性を磨く 実践を通じて育む 国際的視野と人間力

グローバルな現場で学ぶ 実践的な研修体験

2025年9月現在、本学はアジアおよびアメリカの10の高等教育機関と交流協定を締結し、海外研修・実習を実施しています。2024年度は初開催のカンボジアジャパンハートプロジェクトが加わり、海外派遣は計7件、41名の学生が参加しました。海外の保健・医療・福祉・教育の現場を訪れ、海外の看護やリハビリテーションなどを含む医療制度に関する講義や福祉施設見学、病院やリハビリテーション施設での実習を通し、多様な価値観や異文化への理解を深めました。参加学生は「言語や文化の違いに戸惑いながらも、伝えよう・受け入れようとする姿勢の大切さ

を実感した」「日本と海外の現場の違いを肌で感じ、視野が広がった」「改めて専門職としてのあり方を考える機会となった」等と充実した経験を語りました。また、海外からの受け入れも5件実施し、58名の学生を迎えました。国際保健医療福祉プログラム（副専攻）の学生が中心となりキャンパスツアーやウェルカムパーティーを企画し、交流を深める機会もありました。本学での学びを契機に国際的な感覚を持つ学生が増え、将来、グローバル社会において活躍できる専門職が一人でも多く育つことを期待しています。海外実習・研修に少しでも興味のある方は、グローバル教育推進センターまでお気軽にお問い合わせください。

2024年度 派遣

プログラム名	派遣先	日程	派遣人数
海外研修(シンガポール)	ナンヤン理工学院	24/9/1-9/8	9
国際看護実習@シンガポール	ナンヤン理工学院	24/9/1-9/15	2
国際支援アクティブラーニングII カンボジアジャパンハートプロジェクト	ジャパンハート医療センター	25/2/5-2/12	3
アメリカ教育研修	シアトルバシフィック大学	25/2/12-2/21	4
国際理学療法実習@フィリピン	マリアノ・マルコス州立大学	25/2/15-3/2	6
シンガポールリハビリテーション研修	シンガポール工科大学	25/3/16-3/23	11
アメリカ看護研修	サミュエルメリット大学	25/3/16-3/26	6

2024年度 受け入れ

受入大学	日程	受入人数
サミュエルメリット大学(アメリカ)	24/6/17-6/24	10
ナンヤン理工学院(シンガポール)	24/9/2-9/13	2
マリアノ・マルコス州立大学(フィリピン)	24/10/19-11/2	5
シンガポール工科大学	24/12/9-12/13	17
ナンヤン理工学院(シンガポール)	25/3/3-3/4	24



国家試験・教員採用試験対策 卒業生インタビュー



林 宙輝 さん

看護学部看護学科
2024年度卒業
[取得資格] 看護師、保健師
[就職先] 聖隷浜松病院

私は要領よく勉強することが苦手だったため、参考書が手元に届いた4月から勉強を始めました。「〇月までにQBを一周する」「今日は単元を2つ終える」というように達成できる小さな目標を立てて取り組みました。今振り返れば、年明けから毎日10時間以上やる人が多い中、早めに勉強を開始したことで大きく焦ることなく自分のペースでできたように思います。しかし、どれだけ頑張っても、漠然とした不安は常にあり、国家試験が近づくにつれて、その気持ちは強くなっていきました。そのような時に、不安な気持ちをいつも聞いてくれたり、「きっと大丈夫」というような言葉をかけてくれたりしたことがとても励みになりました。感謝の気持ちでいっぱいです。



伊奈 孝太郎 さん

社会福祉学部社会福祉学科
2024年度卒業
[取得資格] 社会福祉士
精神保健福祉士
[就職先] 浜松学園

私は国家試験勉強の際、「イメージで記憶すること」を意識しました。特に社会福祉士の試験範囲は膨大です。参考書や模擬試験の解説を図式化、すなわちイメージ化して覚えるとよいでしょう。友人と「こうしたら覚えやすそう」と話し合えると素敵ですね。保護者の方には、お子様を見守る存在であっていただきたく思います。私自身、見守ってくれる家族のお陰で、試験当日までを安心して乗り越えられました。プレッシャーと隣り合わせの受験生にとって、「大丈夫。いつも見守っているよ」というお声かけは、きっと、「頑張れ」という言葉以上に響くはずですよ。



岡部 莉奈 さん

リハビリテーション学部
言語聴覚学科
2024年度卒業
[取得資格] 言語聴覚士
[就職先] 聖隷三方原病院

私は、過去10年分の国家試験問題を解き、分からなかったところは友人と調べ、話し合うことで理解していました。一人で勉強するよりも友人と勉強することをお勧めします。友人と勉強することでより記憶に残ったり、精神面でも支え合ったりすることができるからです。国家試験の期間は、感染対策を徹底するなど私の健康面を家族がサポートしてくれました。国家試験は過去の積み重ねが大切です。受験生はもちろんそのご両親も強い不安があると思いますが、一番近くでその努力を見守り、寄り添い、できる限りサポートしていただければと思います。

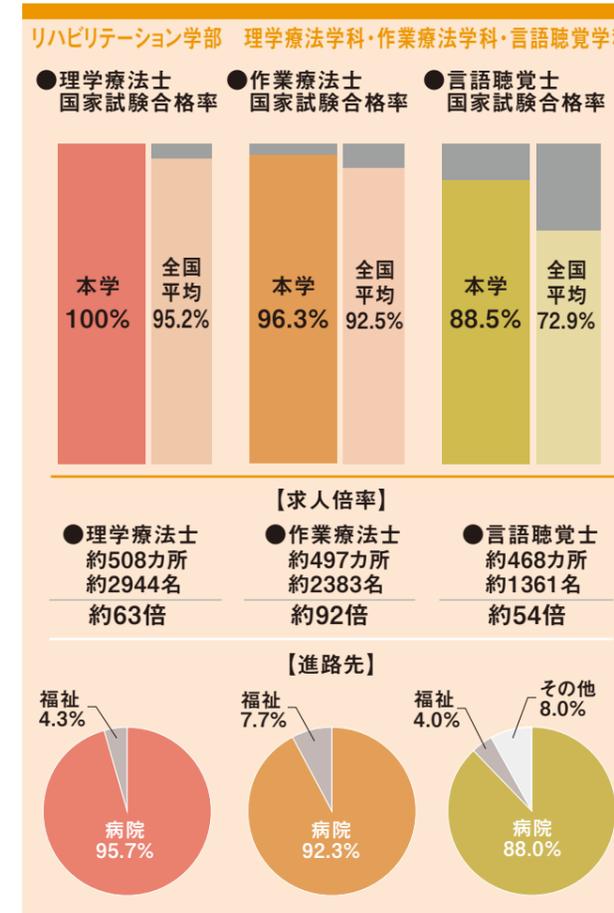
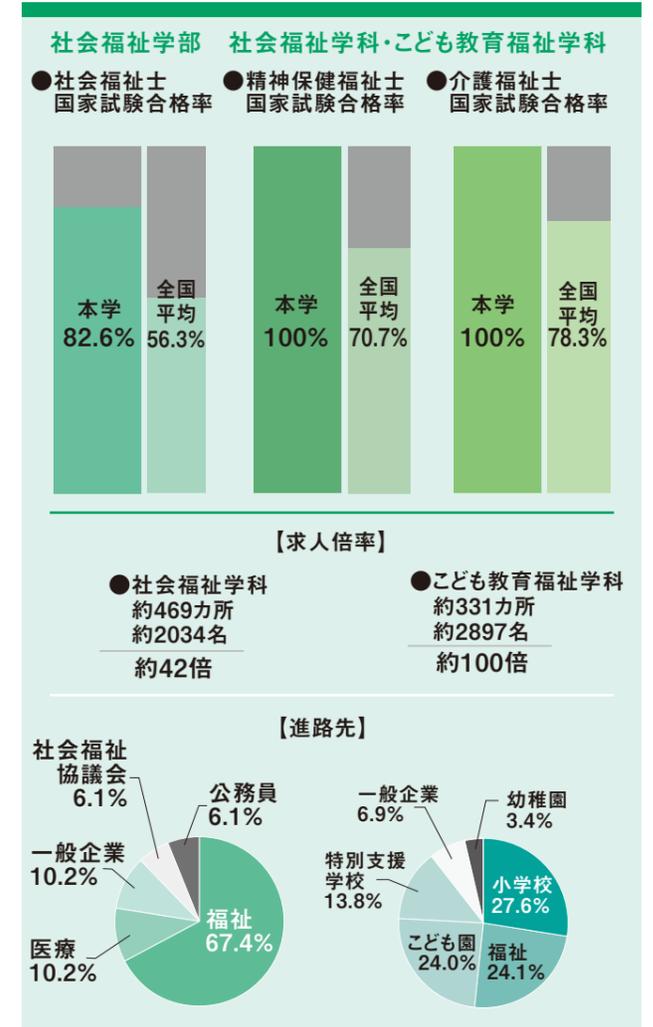
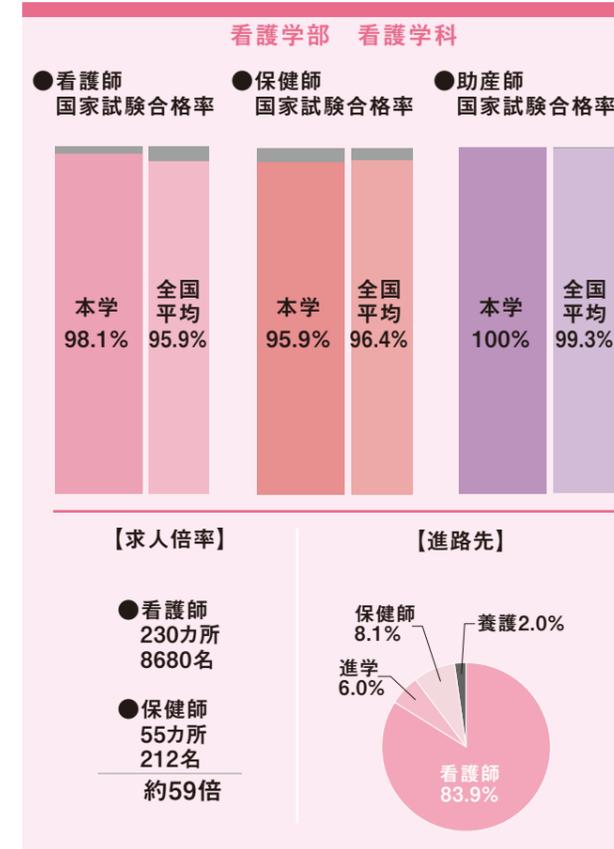


松下 佳代 さん

社会福祉学部
こども教育福祉学科卒業
2024年度卒業
[取得資格] 小学校教諭一種免許状
幼稚園教諭一種免許状
[就職先] 御前崎市立第一小学校
[合格した自治体(教育委員会)等] 静岡県教育委員会

教員採用試験の対策では、過去問や問題集を使って出題傾向分析を徹底しました。特に面接は、過去問を参考にしながら回答を考え、先生方に練習に付き合ってもらい、実践的な練習を繰り返しました。私たちの代から筆記試験の日程が5月に前倒しになり、4年生に進級後すぐに試験であったため、急ピッチで対策を進める必要があり大変でした。家族には、試験勉強で精神的に辛い時も「頑張ってるね」という温かい言葉で応援してもらい、それが何より嬉しかったです。直接何かをしてもらったというより、常に私を応援し、見守ってくれている気持ちが支えとなりました。教員採用試験は長期戦で精神的プレッシャーも大きいです。受験生をもつ親御さんは、どうか結果を急かさず、温かく見守ってあげてください。精神面でのサポートをすることが何よりも大切だと思います。

2024年度 国家試験・採用試験の結果と就職関連情報



国際教育学部 こども教育学科

【主な資格】

- 小学校教諭一種免許状
- 幼稚園教諭一種免許状
- 保育士 登録資格
- 公認心理師 国家試験受験資格※1
- 公認心理師
- 国際バカロレア教員(PYP)
- 特別支援学校教諭免許状※2

※1 大学卒業後、大学院にて指定科目の履修か、認定施設にて2年以上の実務経験が必要です。
 ※2 星槎大学開講科目の単位取得により取得します(一種または二種)。受講には別途費用がかかります。

2023年4月に開設した国際教育学部こども教育学科では、2027年3月に1期生が卒業予定です。

地域連携推進センター通信

【浜松市と大学との連携事業～大学生による講座】

聖隷クリストファー大学は、浜松市が企画・推進する事業「浜松市と大学との連携事業～大学生による講座」に参画しています。この事業は、市民と大学生が生涯学習を通じて自身の成長や能力の向上を図り、その学びの成果を地域づくりにつなげていくことを目的に行われています。2025年度は下記の7講座を実施中です。



講座名	対象	担当学科	会場
認知症予防講座	地域在住の高齢者	看護学科	竜川ふれあいセンター
英語を楽しもう - Let's enjoy English!	幼稚園児～小学生(2年生)	こども教育学科 こども教育福祉学科 看護学科	中瀬協働センター
足腰を鍛えて健やかな生活を送りましょう	高齢者	こども教育学科 こども教育福祉学科	(未定)
自分の体の使い方を知ろう ～走力・体力アップのヒント～	小学生(1～6年生)	理学療法学科	県居協働センター
認知症予防 “海馬を鍛えよう!!”	どなたでも	理学療法学科	中部協働センター みをつくし文化センター
記憶力向上講座 ～忘れ物をしないコツ～	小学生(1～6年生)	作業療法学科	(未定)
赤ちゃん博士になろう!	小学生(1～3年生) とその家族	助産学専攻科	南部協働センター

※講座名や対象は変更になる場合があります。

【2024年度 地域連携事業報告】

本学では、「保健医療福祉・教育分野に係る全ての人たちとの共同事業・研究」を推進するために、保健・医療・福祉・教育の実践現場との連携のもとに行う地域の課題解決に向けた事業を募集し、毎年採択しています。



課題名	代表者(職位)	課題名	代表者(職位)
「寄合いワークショップ」手法を活用した掛川市千浜区住民と「ふくしあ」との協働による住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせる健康な地域づくり	三輪 真知子(教授)	成長期のサッカー選手における外傷・障害予防事業	根地嶋 誠(教授)
領域の異なる多職種連携による在宅医療・介護連携推進事業～神経難病療養者が住みやすい浜松を創る～(第3期)	河野 貴大(助教)	スポーツを通じた交流が共生社会の実現にもたらす効果	藤田さより(准教授)
病気や障がいがある人の「きょうだい」のサポート事業～シブリングサポーターの養成その2～	福田 俊子(教授)	図書館を活用したマイブックリスト作成プログラム～読書による知的活動の増進事業～	鈴木 達也(准教授)
		かけがわ口腔機能健診プロジェクト	柴本 勇(教授)
		こどもの感性と創造性を育む五感をとoshした美的経験によるアートプログラム開発Ⅲ	鈴木 光男(教授)
		全面発達を目指す保育実践研修会の開催とネットワークの構築	和久田佳代(教授)

ご挨拶

地域連携推進センターは、本学の「保健医療福祉および教育・保育」の特色を活かし、地域振興に貢献するため、自治体や地域との連携を行っています。

二〇二五年度は、①地域連携事業活動(本センターから講師派遣を行う等)、②公開講座(年間六回)、③浜松市との連携事業「大学生による講座」(協働センター等での講座)をそれぞれ実施していきます。地域に開かれた相談窓口となり、課題解決につながるよう、これらの活動へ積極的に取り組んでいきます。

地域連携推進センター長
教授 金原 一宏



新任教員紹介



看護学部
看護学科
助教 足田百合香

基礎看護学の演習や臨地実習を担当します。学生の皆さんが看護専門職者として成長発達できるように、私の今までの経験も交えながらサポートしてまいります。また自分自身も教育者として成長し続け、自分のキャリアを伸ばせるように邁進していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



看護学部
看護学科
助教 菅井 篤

小学校教諭としての現場経験を活かして、幼小教員養成をして参りました。本学では養護教諭課程と小学校教諭課程、国際バカロレア教員課程を担当いたします。学校教育の楽しさが伝わるような授業を心がけ、学生の皆さんと学び合っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



看護学部
助産学専攻科
助教 鈴木 恵

助産学専攻科の講義、演習、実習を担当します。生命の尊厳と隣人愛を基礎として、女性とその家族の健康と幸せのための支援について、学生の皆さんとともに探求し学べることを楽しみにしています。



看護学部
看護学科
助手 石川小雪

急性期看護学の主に演習と臨地実習を担当します。学生の皆さんが主体的に学べるようにサポートさせていただきます。そして、学生と共に学びながら自身の経験を振り返り、私自身も成長していきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。



リハビリテーション学部
作業療法学科
助手 木村侑里南

本学を卒業後、回復期リハビリテーション病棟で勤務していました。学生に近い立場を活かしながら、その人らしい暮らしを支える作業療法について、共に探求していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

就職・進学支援

2024年度卒業者の就職・進学状況

2024年度に卒業した19名の学生のうち、就職・進学希望者は19名で就職率100%です。

卒業生数	就職希望者数	進学希望者数	就職者数	就職率
19名	19名	0名	19名	100%

【お問い合わせ先】

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校
キャリア支援センター
TEL:053-436-7233 FAX:053-437-6782
E-mail:career@seirei.ac.jp

【1年次生】 就職・進学支援プログラムについて

専門学校は入学から就職活動開始までの期間が短いことから、1年次生の5月から就職などに関する支援プログラムを実施しています。

2025年5月	社会人になるための基礎講座 社会人マナー講座 スーツ着こなし講座 メイクアップ講座 ※動画紹介
11月	2年次生による就職活動報告会 卒業生と在生との懇談会
12月	履歴書の書き方、面接の受け方講座 聖隷クリストファー大学社会福祉学部への編入学説明会
2026年3月	福祉系の法人・施設などを招いての説明会

【2年次生】

内定を頂いた2年次生を対象とし、2月に「就職内定後の心構え、社会人としての心構え」のプログラムを実施しています。



学生たちの とある1日

A Day in the Life of Our Students



私になりたい介護福祉士は、ご利用者一人ひとりに寄り添い、その人らしい生活を尊重しながら支援できる存在です。ご利用者の方々はそれぞれ価値観や好みが違います。毎日の関わりを大切に、小さな変化にも気づけるよう心がけて介護を行います。また、言葉だけでなく、表情やしぐさからも気持ちを汲み取り、信頼関係を築き、安心して頼ってもらえる介護福祉士になりたいです。(渡邊さん)

私になりたい介護福祉士は、ご利用者一人ひとりに寄り添い、その人らしい生活を尊重しながら支援できる存在です。ご利用者の方々はそれぞれ価値観や好みが違います。毎日の関わりを大切に、小さな変化にも気づけるよう心がけて介護を行います。また、言葉だけでなく、表情やしぐさからも気持ちを汲み取り、信頼関係を築き、安心して頼ってもらえる介護福祉士になりたいです。(渡邊さん)

「この人だったら任せでも大丈夫」と思ってもらえる、そしてご利用者や家族の方から信頼される介護福祉士になりたいです。そのため、笑顔で接して相手の価値観を尊重できるように、日々努力しています。(奥井さん)



どんな介護福祉士になりたい？

学生インタビュー



介護福祉専門学校通信

入学式「新入生のことば」

「人間関係とコミュニケーション」
人と関わる上で、一番大切にしたいコミュニケーション。この授業では、人間関係の構築、相手とのコミュニケーションの取り方、ご利用者の気持ちを考えるなど、「人の気持ち」についてよく学べる科目です。この授業を受けたことで、普段の日常生活から相手の気持ちを考えられるようになり、より良い生活を送ることが出来るようになったと実感しています。友達百人作るなら、まずは、コミュニケーションから！(藤松さん)

「介護の基本」
現在と昔では、介護の仕方や制度などは違います。この授業では、これまでの介護の歴史、介護福祉士の理念や倫理などの介護福祉士になるために必要な事を学ぶことができます。どのようにご利用者と向き合い、どのような配慮をし、専門知識や技術をご利用者に提供するかなどを教えてください。授業を受けていて多くの介護福祉士として必要な事を学ぶことができ、とても楽しいです！(三富さん)

学生さんに
授業を紹介して
もらいました！



車いす演習



介護課程 I

授業風景

研究者への道

国際教育学部 助教

渡邊拓真



始まりは保育者

私は長らく「幼稚園の先生」をしていた元保育者です。私が保育の世界に足を踏み入れた頃は、男性保育士を題材にしたドラマ「よい子の味方」新米保育士物語」が放送され、社会的に男性保育者が注目された時期だったと記憶しています。それでも男性保育者の存在は珍しく、勤めた幼稚園では私一人でした。女性社会に男性一人、いくらか困難も伴いましたが、子ども達から「先生、ぐるぐる回して」「水鬼しよ」と身体を使った遊びに誘われることが多く、求められる嬉しさから充実感を得ていました。毎日ヘトヘトになりながらも、刺激的で濃密な保育者生活を送っていました。

保育環境への疑問と大学院進学

私が勤めた私立幼稚園は職員数が多く、何事にも丁寧に対応することを信条としており、保護者の方々から高い評判を得ていました。少子化の影響が直撃する現在においても、多くの子どもが通う幼稚園です。この幼稚園の保育は、先生が子どもの前に立ち、歌唱指導や製作指導をクラス全員で行う、いわゆる「一斉保育」の形態を主とするものでした。勤め始めた頃は気にならなかったのです

が、経験を重ねるにつれ、この保育形態について考えるようになりました。

日本の保育では「環境を通して行う教育」が基本とされており、子ども一人ひとりが主体的に行う「遊び」が大切にされます。子どもが自由に選択して行う「遊び」によって、子どもはさまざまな経験を積み重ね、豊かに成長するとされています。しかし、日本には様々な保育のカタチがあり、保育時間の多くを一斉活動によって一律に指導し、知識や技術の習得を目指した活動に重点を置く園もあります。その場合、遊びの時間を余暇として扱うことにもなりかねません。そのような保育のカタチは、一人ひとりの子どもが育つ環境として適したものなのかと、私は疑問を抱くようになりました。

そのようなことをぶつぶつ呟いていると、ある時、信頼する保育関係者から「四の五の言っていないで大学院へ行って学びを深めなさい」と喝を入れられました。漠然とした違和感を抱いているだけではいけない、自分の感覚を理論的に説明できるようにしなければならぬと思います、大学院進学を決意しました。

初めての研究、子ども理解への挑戦

仕事を続けながら入学したため、四年で修士課程を修了する計画を立てまし

勤していたように思います。

春は子ども達と集めた野草を使ってホットケーキを焼いて食べ、夏は森の斜面にブルーシートを敷いた天然のスライダーで水遊びをし、秋は森で拾い集めた栗を使って炊いたご飯を囲んでパーティを開き、冬は焚き火で温まりながら一日中外遊びを楽しみました。子ども達は周囲の環境に自ら関わり、保育者とともに自分たちで日々の生活をつくって過ごしていました。このような体験から、私は環境のもつ力について、また自然環境の魅力について改めて考えてみたいと思うようになりました。

そんな中、二度目の転機が訪れ、聖隷クリストファー大学に勤めることになりました。周囲の保育者仲間からは「子どもと関わらない職場へ行って大丈夫？」と心配されました。長年子どもと喜怒哀楽をともしることが仕事だったため、私も若干不安がありました。しかし、環境のもつ力について研究を進めたい、また私の保育経験が保育者を目指す学生を後押しできるかもしれないと思い、養成校への転身を決意しました。

本学に赴任して一年、先生方と学生に支えられながら充実した教員生活を送ることができています。時折キャンパスの中庭で、散歩に訪れた保育園の子ども達を見かけます。子どもには強大な引力が備わっているようで、気が付くと私は子



斜面に挑む三歳児

いっばい引っぱり、身体ごとぶつかってきます。その行為に悪意は感じられませんが、また友達に対しても、あえて強く引張るなどの行為を用いて思いや考えを伝えようとしたり、それに対して受け手が意図を理解しようとする姿が見られます。私はそのような行為について、表面的な攻撃性の裏に相手への親しみや信頼があると考えていました。もちろん人を叩く行為を推奨するものではありませんが、保育者が「ダメ」と一蹴することは正しいのか、強く相手に身体で接触する行為には、相手を傷つけるのではなくコミュニケーションの役割もあるのではないかと考え、「幼児間における強い身体接触の役割」を私の修士論文のテーマとしました。

二つの転機、実践と研究の融合へ

仕事における転機が訪れたのは、修士課程三年目のことです。広島大学附属幼稚園に勤める機会をいただきました。年齢的にも新たな保育現場で実践を行う最後の機会だろうと考え、転職を決意しました。しかし、生まれも育ちも名古屋の私にとって、広島は中学の修学旅行の思い出しかありませんでした。また急遽決まった転職であったため、妻と娘を名古屋に残し、単身で広島へ行くことになりました。



緊張から浮かれる初めての学会発表

た。日中は子どもと全力で遊び夜間に講義を受ける生活は、眠気と格闘する日々でした。それでも研究という新たな世界に足を踏み入れたことに高揚感を覚え、同期の学生と励まし合いながら学生生活を送りました。

しかし、困ったのは研究テーマでした。保育形態に関心はあったものの、それをどのように研究すればよいのか悩み、なかなか前進することができませんでした。そんな折、指導教員から「保育形態を考える以前に、まずは子どもを理解することから始めるべきでは」と指摘をいただきました。私は子どもの行為に着目することにしました。

当時私は、子どもが相手を叩く、押す、引張るなどの行為を目にした際、大人が「叩いたらダメ」と急いで制止しようとするのに、引っかかりを感じていました。なぜなら、子ども達は喜々として私を叩いてくるからです。私の腕を力

どもの隣に腰を下ろして話しかけています。危ないおじさんにならないように気を付けているつもりですが、引率する先生の笑顔の裏側までは読み取れません。不審者情報が出ないことを心から願っています。

今後の展望

私の強みは、全く異なる保育形態や環境の幼稚園で勤めた経験があることです。そこから、環境が子どもにももちろんのこと、保育者にも強く影響することがわかりました。長年の実践者としての経験を土台とし、環境と子ども、保育者の関わりについて研究を進める所存です。保育の道は歩むほどに面白くなると確信していますので、学生と保育を語り合いながら夢を追うことを応援し、また社会に向けて保育の魅力を発信したいと考えます。

略歴 名古屋市出身。名古屋市内私立幼稚園にて教務主任。愛知教育大学大学院教育学研究科発達教育学専攻幼児教育領域修了。広島大学附属幼稚園にて研究主任。森で展開される自然保育の虜になる。二〇二四年より聖隷クリストファー大学国際教育学部に勤務。保育環境と子どもとの関わりについて研究中。

Recurrent education

リカレント教育のご案内

聖隷クリストファー大学および大学院は、卒業生の皆さんが保健・医療・福祉・教育の専門職者として活躍し続けるために一層専門性を向上させ、最新の知識・技術を身につけていくことを支援しています。こちらで紹介している公開講座等は、ご興味があればどなたでもご参加いただけますので、ぜひこの機会をご利用ください。

こちらに掲載している内容は2025年9月時点の予定です。最新の情報は大学ホームページ「研究・地域連携」→「リカレント教育・勉強会」(<https://www.seirei.ac.jp/cooperation/recurrent/>)をご覧ください。



公開講座・セミナー

問い合わせ先:キャリア支援センター E-mail:career@seirei.ac.jp
お申し込み先:大学院ホームページよりお申し込みください。 <https://www.seirei.ac.jp/graduate>

看護学研究科NP記念講演

日時 9月16日(火)
会場 アクティシティ浜松 コンgressセンター
※詳細が決定次第、大学ホームページ等でご案内いたします。

大学院看護学研究科 養護教諭専修免許取得課程 開設記念公開講座

日時 11月29日(土) 13:30~15:00(13:00開場)
会場 聖隷クリストファー大学およびオンライン
対象者 大学院進学を目指す方、研究に興味のある看護職の方、養護教諭一種免許を保有している方
講師 アレルギー事故によりお子様を亡くされたご遺族の方(※)、一柳雄輔氏(聖隷浜松病院 看護部 小児看護専門看護師)
※ご家族のプライバシー保護のため、氏名を伏せて広報しております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

2025年4月、聖隷クリストファー大学大学院看護学研究科は、博士前期課程地域看護学領域に養護教諭専修免許取得課程を開設しました。

子どもを取り巻く様々な社会情勢や生活環境の変化等により、生活習慣病やアレルギー疾患の増加、デジタル機器の長時間使用による視力や心身への影響などの健康課題に対し、専門性の高い課題解決能力が求められています。この大きな課題に対し、本研究科では看護師と養護教諭一種免許を基礎資格とし、高度な実践力と専門的知識を備えた養護教諭の養成を通じ、解決の一端を担いたいと考えています。このような本課程開設の意義や教育目的について、開設記念公開講座を実施し、地域に広く伝える機会としたいと考えました。また専修免許取得により、養護教諭のキャリア支援にも貢献します。この公開講座では、過去にアレルギー事故で亡くなられたお子様を持つご遺族の方によるご講演、および本学大学院修生でもある一柳先生の、小児看護専門看護師としての立場からお話しいただき、今後子どもに関わる看護専門職が子どもの命と健康を守っていくためにどのような役割を担うのかについて考える機会とします。

活躍する卒業生



浜松市障害保健福祉課
精神保健福祉士
長坂 彩瑛 さん

聖隷クリストファー大学
社会福祉学部社会福祉学科 2018年度卒業

「二つの視点」が拓く精神保健福祉士の道： 当事者に寄り添い、法と地域をつなぐ

私が聖隷クリストファー大学社会福祉学部に入學した当初は、子ども家庭分野で社会福祉士・精神保健福祉士として勤める母親を見て、子どもに関わるソーシャルワーカーになりたいと思っていました。精神保健福祉士養成課程のカリキュラムを通して、単に病気を予防したり治療したりするだけでなく、精神障害者の社会活動参加等の促進や国民の精神的健康の保持、増進に努めるという、先のことを前向きにとらえる精神保健福祉士の考え方に魅力を感じ、精神保健福祉士として働くことを決めました。

私が所属する浜松市障害保健福祉課の業務では、休日や夜間などを含め二十四時間三百六十五日体制で緊急対応することがあります。また、多様な事業の見直しや丁寧な市民対応が求められています。常に新しいことやイレギュラーなことに挑戦する環境の中で、私は、当事者に寄り添う支援者としての視点と、法律や制度に基づく行政職員としての視点の両方を持って考えることを大切にしています。

精神障害者の希望やニーズに応じた支援体制の整備を目的として、令和四年に精神保健及び精神障害者福祉に関する法律が一部改正されました。これ

に伴い、私は、市の条例や各種要綱の整備、新たな事業への取り組み等を行ってきました。特に、医療保護入院に関する仕組みは大きく変わったので、法律の条文や国から発出された通知に何度も目を通して、医療機関からの問合せに対応できるようにしました。法の解釈や法に明言されていない対応に迷う時は、法の目的に立ち返りながら、「精神障害者の希望やニーズに添うものは何か」「精神障害者の権利擁護を図ることができるか」と当事者を主体として考えることで、解決に近づけることができるようになりました。

支援者としての視点と行政職員としての視点は、時に相反することがあるため頭を悩ませることも多いですが、それぞれの立場での経験や考えを活かすことができるという強みがあると思っています。

最近では、地域の医療機関や事業所で活躍する大学時代の仲間と一緒に仕事を増える機会が増えました。様々な経験を積んだ仲間からの助言は心強く、また、悩みを分かち合う心理的な支えにもなってくれています。地域との連携を大切にしながら、現場の声を施策に反映させる橋渡し役となれるよう今後も努力していきたいと思っています。

公開講座・セミナー

大学院リハビリテーション科学研究科 高度実践リハビリテーションコース講演会

日時 11月1日(土) 14:00～15:45 (13:30受付開始)

会場 聖隷クリストファー大学およびオンライン

講師 山内克哉氏(浜松医科大学教授)

※詳細が決定次第、大学ホームページ等でご案内いたします。

大学院リハビリテーション科学研究科 公開講座

『研究初心者のための臨床研究入門』

日程 12月6日(土) 10:30～15:55

会場 オンライン開催

※詳細が決定次第、大学院ホームページ等でご案内いたします。

臨床に携わる専門職は、日々の患者さんの診療の中で、多くの疑問を持っていることと思います。また多くの臨床家が研究疑問の解決をめざして研究に取り組んでおられますが、実際に研究を始めようとする、さまざまな課題や悩みが生じてくると思います。本講座では地域の実践現場で研究を進めようと考えておられるリハビリテーション専門職の方々に、研究への具体的手がかりを得られるプログラムを提供したいと思います。日常感じておられる疑問や課題解決の第一歩としてご利用いただければと思います。

大学院社会福祉学研究所 講演会

『子どもの権利条約と日本の学校のこれから—こども基本法成立をふまえて』

日時 2026年1月24日(土) 13:30～16:30

会場 浜松市福祉交流センター 大会議室

対象者 興味のある方はどなたでも参加できます。特に、子どもの権利に関心のある高校生・大学生、子どもに関するお仕事をされている方(保育士、教員、教育行政の方、支援者など)、子どもを見守る地域の方

定員 100名(先着順)

講師 喜多明人 先生(早稲田大学名誉教授・文学博士)※

1989年に国連で採択され、日本も批准して30年を迎えた「子どもの権利条約」は、すべての子どもが人間として尊重され、安心して成長できる社会の実現を目指す国際的な約束です。条約は子どもを単なる保護の対象から、権利を行使する主体へと位置付けました。それらを受けて児童福祉法の改正、こども基本法の制定、生徒指導提要の改訂等が進み、子どもの権利条約に基づく子どもの権利の理解が新たに明記されました。

しかし、いじめや不登校、虐待、貧困など、子どもたちを取り巻く課題はいまだ深刻であり、日本の福祉や学校現場で子どもの権利をどのように保障し、子ども自身の声をどう活かしていくかが問われていると言えます。

本講演会では、子どもの権利条約の理念とこれまでの歩みを振り返りつつ、子どもたちが自らの意見を表明しながら参加できる社会を考えます。皆様と共に学びながら、未来の教育や福祉のあり方を見つめ直す機会となることを願っています。

※早稲田大学1987年卒／日本教育学会名誉理事／人権の権利条約ネットワーク代表／広げよう!子どもの権利条約運動委員会共同代表／スクールソーシャルワーカーと教師の会世話人代表／めぐろチャイルドライン代表・チャイルドライン東京ネットワーク代表／東京シュレー前代表理事(2023年6月迄)／日本の権利条約総合研究所前代表(顧問)

公開講座・セミナー

作業療法学科・大学院作業療法学分野 公開講座

『作業療法学分野における研究法「超」入門』

日時 10月以降開催予定

会場 聖隷クリストファー大学およびオンライン

対象者 リハビリテーション領域の研究に関心のあるリハビリテーション専門職の方

※詳細が決定次第、大学院ホームページ等でご案内いたします。

臨床業務の中で、多くの疑問が生まれると思います。そのような時に、「その疑問をどのように形にしたら良いのか?」、「現在手元にあるデータで何が分かるか?」等の悩みが生じてくると思います。本講座では、特に作業療法学分野での研究をもとに、それらの解決のヒントになるような講座を提供したいと思います。日常感じておられる疑問や課題解決のはじめの一歩としてご利用いただければと思います。1時間半～2時間という短時間ですので、お気軽に受講ください。

言語聴覚学科公開講座

『コミュニケーション／嚥下障害音評価・治療Update』

会場 オンライン開催

対象者 本学卒業生、全国の言語聴覚士、関連職種、一般の方など公開講座受講を希望される方

◇第1回【10月11日(土)】

14:00～14:45「摂食嚥下リハビリテーションの未来を考える」柴本 勇教授

14:55～15:40「聴覚障害のある子どもの音声言語発達と特徴 ～見えにくい個人差をどう理解するか～」大原 重洋教授

◇第2回【11月29日(土)】

10:30～11:15「発達性吃音の臨床Update—きこえとことばの相談室における経験—」谷 哲夫教授

11:25～12:10「摂食嚥下障害と舌圧」佐藤 豊展准教授

◇第3回【12月20日(土)】

10:30～11:15「言語発達障害児の早期発見のための語彙調査票の検証」小坂 美鶴教授

11:25～12:10「記憶の不思議—ことばにできない記憶—」黒崎 芳子准教授

言語聴覚障害の評価治療理論は年々発展しています。本講座では、本学の教員より最新の理論や技法を紹介します。医療・福祉・教育現場に携わるセラピストや教員の皆さんはもちろん、看護師や介護福祉士、教育や保育に関わる方など様々な職種の方にご参加いただきたいと思います。また身近に障害を持った方がいらっしゃるなど、一般の方のご参加も可能です。※回ごとに開始時間が異なります。ご注意ください。

データベースを利用した研究に役立つ情報収集 入門編(図書館データベース講習会)

日時 9月18日(木) 19:00～19:30、12月6日(土) 10:00～10:30

会場 聖隷クリストファー大学図書館

対象者 地域の保健医療福祉専門職の方

雑誌の論文・記事等を探すことができるデータベースの利用方法についての講習会を企画しました。医中誌WebやCiNii Researchを中心に日本語データベースとその利用方法について図書館司書が説明します。ぜひご参加いただき、院内での研究や日頃の業務にお役立てください。講習会の日時や内容につきましては、ご希望に応じますのでお問合せください。問い合わせ先: 聖隷クリストファー大学図書館 TEL:053-439-1416 E-mail:cl-library@seirei.ac.jp

勉強会・研究会

臨床や福祉実践の中で生じた課題・疑問について仲間と共有し、学び直し、スキルアップを目指してみませんか？

問い合わせ・参加については、大学ホームページ「研究・地域連携」→「リカレント教育・勉強会」をご覧ください。 <https://www.seirei.ac.jp/cooperation/recurrent/>



聖隷CNS事例検討会

開催日時 年4回(6・9・12・3月)

会場 聖隷クリストファー大学

本学大学院看護学研究科博士前期課程CNSコースを修了し、現在活躍中のCNSや、CNSを目指す院生等が集い、複雑な問題を抱える患者・家族への看護介入事例の検討を通して、看護実践力のブラッシュアップに励んでいます。本会の構成メンバーの多くはがん看護CNSですが、小児看護CNS、慢性疾患看護CNS、急性・重症患者看護CNS、老人看護CNSなど、他分野のCNSも参加しています。CNSを目指したい、とお考えの看護師の皆様、事例検討会に参加してみませんか。

浜松QOL研究室

開催日時 1回/月(詳細についてはHPのe-mailにご連絡ください)

会場 聖隷クリストファー大学, オンライン(Zoom)

作業療法の対象となる方々の、生活の質(QOL)についての研究をしています。具体的には、作業療法をはじめとするリハビリテーション介入がQOLに及ぼす影響や、対象者のQOLを適切にあらわすことができる評価尺度の検証です。月1回の勉強会では、英文抄読(英語論文の読み方)や話題提供(興味のある分野や研究の進捗報告)を行っています。

<https://hamamatsuqollab.wixsite.com/website>

聖隷社協会

社会福祉協議会は全国の各都道府県、各市町村に1か所設置されている地域福祉推進の中核的な役割を担う民間組織で、「地域共生社会」構築が叫ばれるなか、ますますその活躍が期待されています。本会は、主に静岡県内の社会福祉協議会で「社協マン・社協ウーマン」として頑張っている卒業生による勉強会を定期的に開催し、同窓生だからこそ気軽に仕事のことを相談し合えるような「より所」になることを目指しています。

浜松子ども臨床事例検討会

開催日時 原則第4金曜日

会場 浜松市福祉交流センターまたはオンライン

医療、保健、福祉、教育、法律等の領域で子どもの支援を行っている方々が、事例検討等を通して学び合う会です。子どもの事例は、ひとつの機関だけで支援が完結できにくくなっています。他機関との連携には、他の支援機関の特徴や限界を知っておく必要があります。また、多職種視点から学び合うことはケースの多面的理解につながり、支援の幅と質を高めます。支援困難ケースをお持ちの方や臨床力を伸ばしたいと意欲される方、さらには連携によるネットワークづくりを目指している方はぜひ参加してみませんか。

開催日時や場所につきましては、HPをご覧ください。<https://www.npo-platform.com/>

その他

聖隷クリストファー英会話スクール

聖隷学園では地域の皆さまの生涯学習の貢献を目的として英会話スクールを35年以上開講しており、今まで約1,300名以上の方が受講されました。高校生からシニアまで幅広い年代の方が在籍しています。英会話がもう少しできたらと考えている方、楽しいレッスンで会話能力を高めてみませんか？本スクールはご都合やレベルに合わせて5クラス開講しています。レッスンの場所は聖隷クリストファー大学5号館です。クラスや講師、年間スケジュール等の詳細につきましてはHPにてご確認ください。※クラスによっては定員に達している場合があります。

お問い合わせ先 聖隷学園 法人事務局 TEL:053-436-5311

関連学会

聖隷国際教育学会年次大会

第3回年次大会「学びのアップデート、やらまいか!」を2025年8月9日(土)に開催しました。

当日の詳細、および次回以降の年次大会(毎年8月以降開催予定)等についての情報は、学会ホームページをご確認ください。<https://blg.seirei.ac.jp/kokusaigakkai/>



第16回 せいれい看護学会 学術集会

テーマ 『『地域』『組織』で横断的に活躍する看護の力』

日時 9月13日(土)9:50~16:30

会場 聖隷浜松病院

大会長 中野由美子氏(社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷淡路病院 総看護部長)

プログラム <会長講演>「チーム医療を繋ぐ横断的活動」<教育講演>原田英樹氏(聖隷淡路病院 病院長)

<シンポジウム1:地域における看護活動と連携><シンポジウム2:おひとりさま(ワンオペ)医療安全管理者から“聖隷医療安全チーム”へ～聖隷医療安全推進ネットワーク誕生の規制～><ワークショップ><交流集会><一般演題>研究報告、実践報告
※詳細は学会ホームページをご確認ください。<http://www.seirei-sons.com/index.html>



第11回 聖隷クリストファー・リハビリテーション学会学術大会

テーマ 未定

日時 2026年3月8日(日)

会場 聖隷クリストファー大学

※詳細は学会ホームページをご確認ください。<https://scsrs.sakura.ne.jp/index.html>



聖隷クリストファー大学社会福祉学会シンポジウム2025

テーマ 未定

日時 2026年3月14日(土)

会場 聖隷クリストファー大学およびオンライン

※詳細が決まり次第学会ホームページへ掲載しますので、ご確認ください。<https://blg.seirei.ac.jp/shakaihukusi/>



同窓会主催セミナー

社会福祉領域

日時 2026年2月14日(土)10:00~11:30

会場 聖隷クリストファー大学 および オンライン

講師 佐々木正和教授(社会福祉学部 教授)

対象者 同窓会および一般の方

定員 50名(予定)



看護領域

日時 2026年2月14日(土)13:30~15:00

会場 聖隷クリストファー大学 および オンライン

講師 未定

対象者 同窓会および一般の方

定員 50名(予定)

リハビリテーション領域

テーマ リハビリテーション学部の学びが拓く未来～卒業生が語る実践と成長～(仮)

日時 2026年3月8日(日)13:30~15:00

会場 聖隷クリストファー大学

講師 未定

対象者 同窓会および一般の方

定員 100名(予定)